

令和 9 年度 入学希望者対象
「学校説明会」資料



学校説明会資料(本紙)目次

学校概要	p. 1 ～ 3
教育課程表	p. 4 ～ 5
国際科資料	p. 6 ～ 7
進路ガイダンス部資料	p. 8 ～ 9
生徒ガイダンス部資料	p. 10 ～ 13
令和 8 年度校納金明細書 (※参考資料)	p. 14
支援制度の案内	p. 15

沖縄県立那覇国際高等学校

〒900-0005 沖縄県那覇市天久1丁目29番1号

電 話 098-860-5931

FAX 098-860-3810

ホームページ <http://www.nahakokusai-h.open.ed.jp>

本校教育の概要

本校は平成10年（1998年）の開校以来、本県トップ校をめざし挑戦を続け、着実に成果をあげてきました。グローバルな視点を持って国際社会に貢献できる人材の育成に、教職員一丸となり取り組んでいます。

I 校訓と教育目標

1 校訓

- ① 自主：自らを律し、自ら判断し、高い目標を掲げ主体的に学ぶことができる人間の育成
- ② 敬愛：自他を大切にし、敬愛の念を持って責任ある行動ができる人間の育成
- ③ 飛躍：自国及び郷土の自然や文化に誇りを持ち、世界に飛躍して活躍し得る国際的な知見と行動力を備えた人間の育成

2 教育目標

一人一人の個性の伸長に努め、創造性・国際性・協調性を培い、時代の変化に柔軟に対応し、国際化、情報化の社会において活躍できる心豊かで、逞しく生きる主体的な人間を育成する。

(1) 普通科

- ① 生徒の多様なニーズに応える進学対策を推進し、生徒一人一人の進路目標の達成を図り、国際社会において活躍できる能力を育成する。
- ② 情報活用能力の育成を図り、高度情報通信ネットワーク社会を豊かに生きる態度を育成する。
- ③ 将来の社会生活に必要な職業観・勤労観を養い、自己実現への意欲と忍耐力を培い、自ら課題を設定し、その解決方法を探り、克服する態度を育成する。

(2) 国際科

- ① 外国語教育を重視し、国際理解教育や国際交流を推進するとともに、国内外の外国語系及び国際学系上級学校進学希望者等の進路目標を達成させる。
- ② 情報活用能力の育成を図り、高度情報通信ネットワーク社会を豊かに生きる態度を育成する。
- ③ 将来の社会生活に必要な職業観・勤労観を養い、自己実現への意欲と忍耐力を培い、自ら課題を設定し、その解決方法を探り、克服する態度を育成する。

II 設置学科

1 設置学科

- | | | | |
|-------|-----|----|------|
| ① 普通科 | 8学級 | 定員 | 320名 |
| ② 国際科 | 1学級 | 定員 | 40名 |
| 計 | 9学級 | 定員 | 360名 |

校時表

1校時	8:15 ～ 9:05
飛躍 time	9:15 ～ 9:25
SHR	9:30 ～ 9:40
2校時	9:50 ～ 10:40
3校時	10:50 ～ 11:40
4校時	11:50 ～ 12:40
昼食	12:40 ～ 13:25
5校時	13:25 ～ 14:15
6校時	14:25 ～ 15:15
7校時	15:25 ～ 16:15
清掃	16:20 ～ 16:30

Ⅲ 「右文尚武」をモットーとした教育活動の展開

本校では、学業を重視しつつ（右文）、社会にとって有為な人材の育成をめざし、社会性や人間性を培うため部活動や特別活動を奨励（尚武）しています。

1 授業中心の徹底した学習活動

学校の教育活動の中心は授業です。生徒が習得した知識を「主体的・対話的で深い学び」によって活用し、次の学びにつなげることができるよう、各教科工夫を凝らして質の高い授業を行っています。

生徒の皆さんも高い志をもって主体的に学習に取り組むことを期待しています。

2 進路目標達成のための取組

本校に入学する生徒のほとんどが大学等の上級学校の進学を希望しています。したがって、生徒や保護者のニーズ等に応ずるため、進路目標達成の取組は本校にとって最も重要な指標の一つです。これまでの取組みが功を奏し、平成 25 年度から 12 年連続国公立大学等現役合格者数 No 1 の進学校となっています。

- ① 切磋琢磨する仲間は「全国」。全国レベルの力をつけるための対外模試を土曜日に実施しています。学力を把握するための模試や生徒の学習実態を把握するための試験等があります。
- ② 生徒の進路先に対応した「個別最適な学び」として、難関大学対策講座、共通テスト対策講座、大学別対策講座、小論文講座等、多くの課外講座を実施しています。
- ③ 生徒の進路目標・学習状況・授業到達度や模試等の結果を基に生徒の状況を総合的に把握し丁寧な進路面談を行うことで、効果的な進路指導につなげています。
- ④ 図書館およびコンピュータ教室における自学自習（16:30～19:30）を実施しています。多くの生徒と一緒に学習することで、学習に対するモチベーションを高め、計画的継続的に学習を進めることができるよう自学自習の態度を養っています。

3 メリハリのある部活動

本校では、豊かな人間性の育成のため部活動を奨励しています。学習時間とのバランスを確保するため、活動日や活動時間を定めています。決められた時間内に集中して活動するのが本校の部活動の特徴です。

- ① 週当たり原則 2 日以上 of 休養日を設けております。（平日 1 日、休日 1 日）
- ② 平日の活動は放課後に行い、活動時間は原則として夏季（2 月上旬～10 月）18:45、冬季（11～2 月上旬）18:15 までとなっています。

Ⅳ 国際化の進展に対応する語学教育と盛んな国際交流活動

那覇国際高校は、国際科を設置する学校として外国語教育・国際理解教育や国際交流活動等を推進しており、本校の大きな特色の一つとなっています。生徒は、国際理解・語学力向上に向けて様々な取組みを行っています。

1 外国語教育

- ① 国際科の専門科目として異文化理解、時事英語等を設置するとともに、第 2 外国語（フランス語、スペイン語、中国語）を**普通科も含めた全生徒**が選択することができます。
- ② 国際会議室（同時通訳教室）や LL 教室を活用した国際理解教育や時事英語等の授業、ALT を活用した Team Teaching の授業等が盛んです。
- ③ 国際科の生徒対象に ALT、語学センター講師を活用して。英語集中研修や同時通訳講座（初級レベルの講座体験）を開設しています。

2 国内・海外研修や国際交流活動等の推進

- ① 2年生は、1月に国内研修を行っています
- ② 国や県が主催する様々な国際交流プログラムへの参加や世界各地からの留学生を積極的に受け入れ交流をすることで、異文化への理解を深めています。
- ③ 令和2年12月に米国モンタナ州にあるギャラティン高校と姉妹校を締結し、令和3年1月にモンタナ州立大学と教育協定書を締結しました。1・2年生希望者を対象にして米国短期研修を実施しています。令和7年度はギャラティン高校の生徒達が来校し国際交流を行いました。

V 県教育委員会 教育改革実行計画 「先導拠点校」としてのこれから

1. 次世代を見据えた「探究活動」の充実を目指して

本校は、平成28年度から令和2年度まで文部科学省スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）、令和3年度から令和5年度まで沖縄県教育委員会「スーパーグローバルハイスクールネットワーク研究モデル校」の指定を受け、探究活動の充実に取り組んできました。

今年度、文部科学省が進める高校教育改革「N-E. X. T.（ネクスト）ハイスクール構想」において、本県のパイロットケースとなる「改革先導拠点（類型2）」として内定を受けました。本校が内定を受けた「類型2」は、文理にとらわれない幅広い教養等を備え、実社会で新しい価値を創造する人材の育成を目指すモデルです。

今後とも、一層の発展を目指し、国際的な視野や課題解決力、コミュニケーション能力を備えた人材の育成を推進します。

- ① 文理融合の学びを核として探究活動を位置づけ、1年次「理数探究基礎」2年次「理数探究」を必修とします。
- ② 探究環境の整備と専門人材による伴走支援で生徒の探究活動を支えます。
- ③ 琉球大学やOIST、地域産業、海外と連携した実践的な課題解決プログラムに取り組み、グローバルに活躍できる視点と発信力を育てます。

2. 柔軟な教育課程の編成

令和10年度から、沖縄県内初の「進学型単位制」への移行を目指しています。進学型単位制の導入により、本校での学びをより深め、進路実現のために自分の興味・関心に応じた時間割を作ることができます。具体的には、1，2年次で多くの必修修科目を修得するカリキュラムで学び、3年次には自由度の高い選択科目を中心に、より深く充実した学びに向かうことができます。これにより、より難関大などより高い目標に向かって学ぶ生徒、海外の大学を目指す生徒など、多才な那覇国生の学びを支えるシステム構築を目指します。

令和9年度入学生 普通科 教育課程表 沖縄県立那覇国際高等学校 全日制課程

共・総	教科	学年・類型等		1 年	2 年		3 年		各教科の 単位の 合計	備考				
		科 目	標準 単位		文系		理系				文系		理系	
					必修	総合選択	必修	必修			総合選択	必修		
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 （ 共 通 教 科 ・ 科 目 ）	国語	現 代 の 国 語	2	2							文系17～19 理系15			
		言 語 文 化	2	3										
		論 理 国 語	4		2		2		4				3	
		古 典 探 究	4		3		3		3				2	
			国 語 セ ミ ナ ー	学設						②				
	地理歴史	地 理 総 合	2	2								文系9～14 理系4～7	セミナーを付した 科目は、同名の探 究を付した科目を 履修済みのものの み選択できる。 地歴科の2科目目 を選択する場合 は、履修済みの科 目と重複は不可	
		地 理 探 究	3		3			③			③			
		歴 史 総 合	2	2										
		日 本 史 探 究	3											
		世 界 史 探 究	3											
		地 理 セ ミ ナ ー	学設					2						
		日本史セミナー	学設											
			世界史セミナー	学設										
	公民	公 共	2		2		2					文系2～5 理系2～5	セミナーを付した 科目は、同名の科 目を同時履修して いるものののみ選択 できる。	
		倫 理	2											
		政 治 経 済	2											
		倫 理 セ ミ ナ ー	学設											
			政治経済セミナー	学設										
	数学	数 学 I	3	4								2・3年の教育課 程表は年次進行	文系18～22 理系20	
		数 学 II	4		5		5							
		数 学 III	3								4			
		数 学 A	2	2										
		数 学 B	2		2		2							
		数 学 C	2					3		3				
		応 用 数 学	学設					2						
		数学セミナーA	学設			②								
			数学セミナーB	学設										
	理科	物 理 基 礎	2	2	2		2					文系10 理系19	セミナーを付した 科目については、 同名の科目を履修 済みのもののみ選 択できる。 学年をまたいで、 同じ科目を重複履 修することは不可 理系のセミナー・科 目において、必修 選択群と理系選択 で同科目を履修す ることは不可	
		物 理	4				5				6			
		化 学 基 礎	2	2										
		化 学	4											
		生 物 基 礎	2											
		生 物	4											
		地 学 基 礎	2											
		物理基礎セミナー	学設				2							
		化学基礎セミナー	学設					2						
		生物基礎セミナー	学設											
		地学基礎セミナー	学設											
		物理セミナー	学設							2				
		化学セミナー	学設											
生物セミナー	学設													
体育	体 育	7～8	2	2		2	3		3	9				
	保 健	2	1	1		1								
芸術	音 楽 I	2	2							文系2～6 理系2	芸術科目は同一 科目をⅠⅡⅢの順 序で履修すること ができる。			
	音 楽 II	2												
	総 合 音 楽	学設												
	美 術 I	2												
	美 術 II	2												
	総 合 美 術	学設												
	書 道 I	2												
書 道 II	2													
		書 道 III	2											
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4							文系18～22 理系18				
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4								
	英語コミュニケーションⅢ	4					4		4					
	論 理 ・ 表 現 I	2	2											
	論 理 ・ 表 現 II	2		2		2		2						
	上 級 英 作 文	学設												
	Intensive English	学設												
	フ ラ ン ス 語	学設												
ス ペ イ ン 語	学設													
		中 国 語	学設											
家庭	家 庭 基 礎	2		2		2			2					
情報	情 報 I	2	2						2					
理数	理 数 探 究 基 礎	1	1						1	「総合的な探究の 時間」の代替				
	理 数 探 究	2		2		2			2					
共通教科・科目単位数合計				33	32	2	34	30	2	32	99			
総合的な探究の時間÷5-G														
単 位 数 小 計				33	34		34	32		32	99			
特 活 ・ ホ ー ム ル ー ム 活 動				1	1		1	1		1	3			
単 位 数 総 合 計				34	35		35	33		33	102			

2・3年の教育課程表は年次進行

其 専 総	教科	学年・類型等		1 年	2 年	3 年		各教科の 単位の 合計	備考
		科目	標準単位			必修	選択		
各学科に共通する各教科・科目（共通教科・科目）	国語	現 代 の 国 語	2	2				16	
		言 語 文 化	2	3					
		論 理 国 語	4		2	3			
		古 典 探 究	4		3	3			
	地理歴史	地 理 総 合	2	2				9～12	セミナーを付した 科目については、同名の科目 を履修したもの のみ選択できる。 地歴公民選択群 は、文系と同時 展開。
		地 理 探 究	3		3	③			
		歴 史 総 合	2	2					
		日 本 史 探 究	3						
		世 界 史 探 究	3						
		地 理 セ ミ ナ ー	学設			2			
		日 本 史 セ ミ ナ ー	学設						
		世 界 史 セ ミ ナ ー	学設						
	公民	公 共 理 論	2		2			2～7	セミナーを付した 科目については、同名の科目 を履修したもの のみ選択できる。
		倫 理 学	2						
		政 治 経 済	2						
		倫 理 セ ミ ナ ー	学設				②		
		政 治 経 済 セ ミ ナ ー	学設						
	数学	数 学 I	3	4				15	
		数 学 II	4		5				
		数 学 A	2	2					
		数 学 B	2			2			
		数 学 C	2			2			
	理科	物 理 基 礎	2			3		7～9	
		化 学 基 礎	2		2				
		生 物 基 礎	2	2					
		地 学 基 礎	2						
化 学 基 礎 セ ミ ナ ー		学設							
生 物 基 礎 セ ミ ナ ー		学設							
体育	体 育	7～8	2	2	3		9		
	保 健	2	1	1					
芸術	音 楽 I	2	2				2		
	美 術 I	2							
	書 道 I	2							
家庭	家 庭 基 礎	2		2			2		
情報	情 報 I	2	2				2		
理数	理 数 探 究 基 礎	1	1				1	「総合的な探究の時間」 の代替	
	理 数 探 究	2		2					
主として専門学科において開設される各教科・科目 （専門教科・科目）	英語	総 合 英 語 I	3～6	6				25	
		総 合 英 語 II	4～8		4				
		総 合 英 語 III	4～8			5			
		ディベート・ディスカッションⅠ	2～4	2					
		ディベート・ディスカッションⅡ	2～4		2				
		エッセイライティングⅠ	2～4		2				
		エッセイライティングⅡ	2～4			2			
		時 事 英 語	学設			2			
	語学	フ ラ ン ス 語	学設		2			2	
		ス ペ イ ン 語	学設						
中 国 語		学設							
共 通 科 目 単 位 数 合 計				25	24	21	2	72	
専門科目・学校設定教科科目単位数合計				8	10	9	0	27	
総合的な探究の時間÷5.6									
単 位 数 小 計				33	34	32		99	
特 活 ・ ホ ー ム ル ー ム 活 動				1	1	1		3	
単 位 数 総 合 計				34	35	33		102	

2・3年の教育課程表は年次進行で作成予定

沖縄県立那覇国際高等学校 国際科の取り組み

国際化の進展に対応する語学教育と盛んな国際交流活動

那覇国際高校は、国際科を設置する学校として外国語教育・国際理解教育や国際交流等を推進しており、本校の大きな特色の一つとなっています。

1. 教育目標

- ①英語を通じて、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
- ②外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ③第2外国語(フランス語、中国語、スペイン語)を通じて、外国の文化について理解を深める。
- ④CALL 教室などを有効利用し、ICT の積極的活用を図ることでコミュニケーション能力を育成する。
- ⑤CEFR B1 以上の資格取得を推進する。

2. 国際科の特徴

- ①英語の時数が多い、第二外国語の授業がある(フランス語、中国語、スペイン語)
※第二言語は普通科文系クラスの生徒も選択可能 ※詳細は教育課程表を参照

②行事

- (1)全学年・新入生歓迎会(4月)

1～3年生が集い、親睦を深める。

- (2)1学年・Meet the World Day(7月)

例年、外国人講師 4 名ほどを招き、文化や言語について学ぶ。

さらに R8 年度は、グローバルな視点をもつ県内企業・団体 10 団体を招き、グローバル×キャリア教育を実施した。

- (3)2学年・同時通訳講座(9月)

2 日間にわたり、約3時間行う。プロの同時通訳者を講師に招き、同時通訳の初歩的なトレーニングを体験する。

3. 普通科・国際科クラス向け(共通)

以下が主な派遣プログラムの派遣者及び参加者です。

【派遣プログラム及び派遣者数】(令和7年)

短期

- (1)学校主催

・米国短期留学研修

希望者をつのり、2～3月に2週間程度姉妹校のあるモンタナ州でホームステイ体験や現地学校への体験入学やホームステイなどを行う。(自費)

※令和7年度は15名派遣 令和8年度は実施なし

- (2)県・市町村主催

・グローバルリーダー育成海外短期留学事業

- ①アメリカ高等教育体験研修(モンタナ州) 2名

- ②沖縄県高校生海外雄飛プログラム(ハワイ) 2名

③中国教育交流研修 2名

- ・国際協力レポーター(ベトナム) 1名
- ・JICA 研修(ボリビア)2名
- ・ウチナーネットワーク構築事業(カナダ)1名
- ・JENESYS 訪韓事業(韓国) 4名
- ・アジア高校生オンライン国際交流事業 18名
- ・令和7年度ウチナージュニアスタディ事業(県内研修) 1名

(3)国主催

- ・トビタテ！留学 JAPAN(9期)1名
- ・カケハシ・プロジェクト(ロサンゼルス) 9名
- ・カケハシ・プロジェクト(TOFU プログラム)2名

長期

(1)県費

国際性に富む人材育成事業 令和7年度…8人 令和8年度…9人

(2)公費

沖米国総領事館大使留学奨学金 令和7年度…3人 令和8年度…4人

(2)私費

各種留学プログラム 令和7年度…5人 令和8年度…4人

4. 留学生受け入れ (3ヶ月～1年間)

本校では海外留学生の受け入れも積極的に行っています。※受け入れ学級は国際科クラスを優先

【令和6年度】

ニュージーランド1名、ハンガリー1名、スイス1名

【令和7年度】

イタリア1名、南アフリカ1名、ベトナム1名、アメリカ1名

【令和8年度】

アメリカ1名、カナダ1名、ドイツ1名、イタリア1名、マレーシア1名、アイルランド1名

5. 校内での異文化交流(令和7年度)

校内でも外国人や海外の文化に触れる機会を積極的に設けています。

- ・ 海外の高校(団体)との交流
香港20名、アメリカ9名、香港22名、オーストラリア 7名
- ・ Gallatin High School 生徒9名

6. その他:外国語に関わるさまざまな取り組み

- ① 校内英語弁論大会…全生徒がクラス大会で発表。学年大会を経て校内大会を実施。上位入賞者を県や大学等主催の弁論大会へ派遣。
- ② スキットコンテスト…授業での取り組み(1年生)、校内予選のち県大会へ派遣。
- ③ ディベート大会…英語ディベート部として活発に活動。県大会、九州大会、全国大会派遣経験あり
- ④ 英語検定の対策サポート(英語科職員による)
英検二次試験対策(面接練習)を行い、これまで多くの合格者を出しています。

生徒個々の進路実現を目指して

1. 那覇国際高校の進路に関する目標

- ① 生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する能力を養う。
- ② 生徒一人ひとりの進路実現のために、個性を生かす進路指導を目指す。
- ③ 進路選択の早期決定を目指す。
- ④ 進路情報の収集・整理・提供に努める。

2. 進路実現のための進路ガイダンス部の取り組み

(1)希望者講座の充実

- ① 放課後講座(難関大講座、基礎講座など)
- ② 夏期講座・春期講座
- ③ 大学入試対応の小論文対策個別指導講座および面接対策個別指導

(2)対外模試の計画的な実施

- ① スタディーサポート〈全国統一の試験を用いた実力テスト〉
1年生:年2回、2年生:年2回
- ② 全国模擬試験〈大学入試に対応した試験〉
1年生:必修3回・希望4回、2年生:必修4回・希望4回、3年生:必修7回・希望7回
- ③ 小論文模試〈大学入試において近年増加傾向〉
1年生:必修2回、2年生:必修4回、3年生:必修2回・希望3回
- ④ 公務員模試〈公務員志望の生徒対象の実践模試〉

(3)講演会・集会

- ① 進路講演会…外部講師による最新の進路情報および模試分析
- ② 進路集会…入試情報の提供および学年別模試分析や学習目標の確認(学年ごと学期に1回)
- ③ 合格体験発表会…合格した3年生による体験発表(3月)
- ④ 進学相談会(卒業生・教育実習生) 夏期講座期間、教育実習期間などに実施
〔実施例〕信州大学・筑波大学・東京都立大学・上智大学・立教大学・九州大学・琉球大学
- ⑤ 大学別入試説明会…夏期講座期間内に校内で実施
- ⑥ 大学生による講演会…本校を卒業した現役大学生による講演会(9月)

(4)「飛躍手帳」による自己管理能力の育成(日々の学習の記録、考査・模試の記録など)

(5)「スタディサプリ」による自律学習の推奨(基礎の学び直しから大学入試対策まで)

(6)3年生進路検討会(各学期):志望と学力状況を確認し進路実現をサポート

(7)学習環境の整備

- ① 放課後自学スペースの提供:情報処理室*wifi 完備(スタサプ利用可)
- ② 大学入試問題集の充実:赤本等の各種問題集の貸し出し
- ③ 模試の過去問題の充実:進路室にて印刷可能
- ④ 入試情報書籍(『蛍雪時代』等)をHR教室に設置

(8)進路情報の提供等

- ① 進路だより「飛躍」の発行(模試のお知らせや入試情報など)
- ② 『進路のしおり』(進路資料+合格体験記)の発行
- ③ 受験レポートの収集と提供(面接の質問内容など受験生からの情報)
- ④ 各種奨学金(日本学生支援機構等)の情報発信および校内窓口業務
- ⑤ 保護者向け講演会等の企画・実施およびHPでの情報発信

メタ認知力を高め、希望進路実現に向けて 「自走できる生徒」

《今年度の合格実績》

国公立大学現役合格者数 **170** 人！ 国公立合格率 **48.4%**

難関大学進学 **14名(北大・京都・九州等)**

県外進学多数 県外国公立大**83**人 県外私大**243**人

R8 年年度卒業生数 351 人



授業・放課後講座・模擬試験・家庭学習
探究活動・HR活動・部活動・学校行事
そして 切磋琢磨できる仲間 の存在

過去5年間の合格実績

《主な国公立大学》

北海道大学 [8] 東北大学 [4] 筑波大学 [13] 埼玉大学 [15] 千葉大学 [10]
お茶の水女子大学 [5] 東京外国語大学 [8] 一橋大学 [2] 横浜国立大学 [13]
名古屋大学 [3] 大阪大学 [14] 神戸大学 [7] 広島大学 [16] 九州大学 [20]
長崎大学 [30] 熊本大学 [12] 琉球大学 [454] 沖縄県立看護大学 [36]

《主な私立大学》

早稲田大学 (28) 慶應義塾大学 (14) 上智大学 (11) 国際基督教大学[ICU] (8)
明治大学 (45) 青山学院大学 (14) 立教大学 (30) 中央大学 (29) 法政大学 (33)
同志社大学 (15) 立命館大学 (28) 関西大学 (12) 関西学院大学 (18)

～**那覇国で、夢の実現を**～

学校生活における生徒心得

生徒ガイダンス部

1、校内生活の心得

- (1) 8時15分の授業に間に合うように登校する。遅刻者は速やかに入室許可の手続きを行い教室に入る。その後、ホームルーム担任へ連絡する。
- (2) 登校時は、制服を着用すること。体育着登校など、指定のある場合はその限りではない。
- (3) 休日中に模擬試験で校舎へ入室する場合は制服で入室すること。休日中に校舎内で活動する生徒は制服・体育着・学校Tシャツの何れかで入室すること。
- (4) 夏季(2月上旬(学年末考査終了後)～10月末)は19:15、冬季(11月～2月上旬(学年末考査終了後))は18:45までに下校する。休日は、下校時間17:00を厳守する。
- (5) 定期考査1週間前から考査終了前日までの部活動は原則として禁止する。
- (6) 校時中は許可のない校外外出を禁止する。
- (7) できるだけ弁当を持参すること。
- (8) 車両運転に関して、「三無い運動」(免許を取らない・乗らない・買わない)を原則とする。
- (9) 自転車での通学は安全係に申請し許可を得ること。自転車には、学校の許可ステッカーを貼り「カギ」をかけ駐輪場に駐輪すること。
- (10) 欠席する場合は保護者等が学校へ連絡する。
- (11) 早退するときは所定の早退届をホームルーム担任に提出する。通院は可能な限り放課後に行くようにする。検査時間の関係等で制約のあるときは、前もって保護者等から担任に連絡してもらう。
- (12) 学習端末(GIGA端末)やスマートフォン等の端末は、GIGA委員会で決めたルールに従うこと。

2、校外生活の心得

- (1) 諸会合、旅行、ピクニック、キャンプ、クラス会等への参加は保護者等の承諾を得て、学校に届出し、学校長の許可を得る。
- (2) 夜間外出は避ける。(22時以後の外出は「青少年保護育成条例」に抵触する。)
- (3) 未成年者立入禁止の場所への出入りを禁ずる。
- (4) アルバイトについて
 - ①原則として禁止する。
 - ②経済的理由でアルバイトを必要とする生徒は、申請書を提出し、本人及び保護者等と関係職員が面談を行った上で、職員会議の承認を得なければならない。(無届けの生徒は支援対象とする)

3、勤怠に関すること

- (1) 遅刻について
 - ①授業の始業に間に合わないものは遅刻となる。但し、授業開始後、半分以上の時間を過ぎて遅刻したものは欠課扱いとする。
 - ②遅刻者は速やかに入室許可の手続きを学年室で行うこと。学年室が閉まっていたら授業の場所へ行き、教科担当教師の指示で手続きを行い授業に参加する。その後、ホームルーム担任へ報告する。
 - ③遅刻取り消しについて
 - 1)遅刻の理由が「保護者の送迎車やバスでの登校時に交通事故等による渋滞に巻き込まれた場合」のみ遅刻を取り消す。
 - 2)遅刻取り消し手順
手順①：当該生徒が生徒ガイダンス(安全教育係)の先生へ申し出る。
手順②：安全教育係の先生が警察等関係機関へ確認。
手順③：遅刻の取り消し。
 - 3)自然渋滞や遅延証明書の提出のみでは原則、取り消しの対象にならない。
- (2) 欠課・欠席について
 - ①無届欠課、無届欠席については勤怠支援の対象となる。

(3) 勤怠支援：改善を目的とした支援を行う

①勤怠支援(統計は学期毎に締める)

支援	支援方法	支援内容	無届欠課	無届欠席
支援1	担任支援	面談+保護者へ連絡	学期で 3時間	学期で 3日
支援2	生徒G学年担当支援	面談+保護者へ連絡	学期で 5時間	学期で 5日
支援3	生徒G主任支援	面談+保護者へ連絡	学期で 10時間	学期で 10日

- ②支援3を超える場合は、生徒指導委員会で支援方法を検討する。
- ③無断入室を繰り返す生徒については、担任・学年会と生徒ガイダンス部で連携し、支援する。

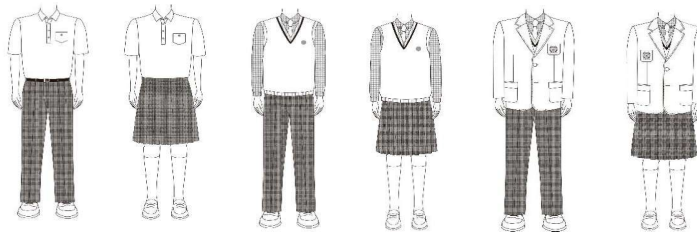
4、免許取得に関すること

「三無い運動」(免許を取らない・乗らない・買わない)を原則とする。ただし、進学・就職が内定した3年生は、「自動車免許取得許可書」を提出し、許可を受けた後、自動車練習所等への手続きを行うことができる。(教習等は、2月の進学準備休み時に受けること)

5、服装容儀に関すること

(1) 制服の規定

右のイラストに加え、
半袖ニットシャツの上の
ベスト着用も可



Top

Bottom

- ・ 半袖ニットシャツと長袖シャツ（以下、「シャツ」とする）いずれも裾はスラックス・スカートの中に入れる。
- ・ ベストは、シャツの上に着用可。
- ・ 長袖シャツを着用する場合は
 - 1) 襟元のボタンを留め、ネクタイを着用する。
 - 2) 上衣はブレザーとする。

- ・ スラックス・スカートどちらも着用可。
- ・ スカートの丈はヒザにかかる程度とする。

※ 儀式等指定がある場合を除き、季節を問わず半袖ニットシャツ・長袖シャツのいずれを着用しても良い。

※ 1学期始業式、2学期終業式、3学期始業式、卒業式、修了式の儀式等は、「長袖シャツ+ネクタイ+ブレザー」に統一。

※ 入学式は「長袖シャツ+ネクタイ」に統一。

(2) 運用規定として次のように定める。

- 本校の指定の制服を着用する。
- 長袖シャツ着用時は、襟元のボタンを留め、ネクタイを着用する。
- シャツの裾は、きちんとスラックス・スカートの中に入れる。
- スラックスを着用する場合はベルトを着用すること。
- スカートのウエストを折り曲げたり、裾丈を詰めたりしないこと。
- 染髪、パーマ、ピアス、マニキュア等は禁止する。
- 寒暖の調整のため、制服の上に着用する上衣は学校指定ジャージも可とする。

(3) 異装者の支援方法

(学年と連携を取り状況に応じ保護者等呼び出しを検討する)

- ① その場で声かけ支援を基本とする。
- ② 始業時の起立・礼の実施（服装を正す）
- ③ 状況により、生徒ガイダンス部で対応を検討する。
- ④ ネクタイ等理由（登校中に紛失、事故等で破れた、汚れた等）があつて着用していない場合は、生徒ガイダンス室で予備のネクタイ等を貸し出している。その際、所定の名簿に署名し、返却はクリーニングをして早めに返却する。前述の理由がなく忘れたものは異装届けを発行しその都度声かけ支援をする。
- ⑤ カーディガンを着てきた生徒は、その場で気づいた職員が声かけ支援をした上でカーディガンを一時的に預かり、生徒ガイダンスの職員に渡す。生徒には、その日の放課後に生徒ガイダンス室に引き取りに来るよう支援する。
- ⑥ ピアス等装身具は、その場で気づいた職員が、声かけ支援をした上で一時的に預かり、生徒ガイダンスの職員に渡す。一時預かりした装身具は、その日の放課後に生徒ガイダンス室に引き取りに来るよう、担任を通して支援する。

6、自転車通学に関すること

(1) 自転車通学を希望する生徒は毎年自転車通学許可申請手続き（新規もしくは更新）を行い、自転車安全講習会に参加すること。

(2) 認可ステッカーは、通学に使う自転車の目立つところに貼り付けること。

(3) 道路交通法の一部を改正する法律（令和6年4月1日施行）により、全ての自転車利用者に対してヘルメットの着用が努力義務となります。

本校の自転車通学者においてもヘルメット着用を推奨します。

* 自転車通学上の注意

- ブレーキ、ライト等の整備・安全面の点検を常時行うこと
- 二人乗りをしない、スピードを出しすぎない等、交通ルールを守ること
- 指定された駐輪場内に施錠して駐輪すること
- 学校敷地内では降車して通行すること

7、スマートフォン等について

(1) GIGA委員会で決めたルールに従うこと。

(2) 利用可能な時間・場所以外での使用の必要がある場合は、最寄りの職員室等で先生の許可を得て使用する。

(3) 以下の場合には状況に応じて同席・幫助等も支援対象とする。

- ① 学習以外の目的で使用
- ② 利用可能な時間以外電源が入っている
- ③ 利用可能な場所以外での使用
- ④ 他者への迷惑行為（例：アラームや通知音等）
- ⑤ 充電・盗電行為

(4) 誹謗中傷・ネットのいじめ等悪質な場合や違法性がある場合は生徒指導委員会で支援方法を検討する。

8、安全管理に関すること

- (1) 校内外の不審者への対応
- ①外部からの不審者と区別するため、本校生徒は規定の制服を正しく着用すること。
 - ②不審者等が侵入しにくい雰囲気作りとして、挨拶を励行する。
 - ③盗難被害防止のため、貴重品の自己管理を励行する。
 - ④学習用具、または部活動等課外活動に使用するもの以外の私物は、持ち込みを原則として禁ずる。やむを得ず持ち込んだ場合の管理は自己責任とする。
- (2) 登下校時の交通安全について
- ①保護者車輛での送迎の際、登校時の渋滞を避けるため学校周囲道路沿いは駐停車禁止とする。また、近隣商業施設駐車場を利用しての生徒の乗り降りは禁止。商業施設より多くの苦情が寄せられています。
 - ②歩きながらの携帯利用などで注意散漫にならないようにする。
- (3) ウェブ上の有害環境に関する注意
- ①携帯等からのウェブサイトへのアクセスが発端となりいじめ被害、詐欺被害、誹謗中傷被害、迷惑メール被害等、様々な被害が出ている。節度ある利用を心がけること。

9、部活動に関すること

- (1) 活動について
- ①部活動は、学期中は週当たり原則 2 日以上の休養日を設けること（平日 1 日、休日 1 日）。但し、顧問の申し出により生徒ガイダンス部を通して校長の許可を得た場合はその限りではない。
 - ②定期考査 1 週間前から考査終了前日までの部活動は原則として禁止する。但し、考査前後 1 週間以内に大会のある場合には顧問の申し出により、生徒ガイダンス部を通して校長の許可を得て活動することが出来る。
 - ③長期休業中の部活動は、①の学期中に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができ、部活以外にも多様な活動ができるよう、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設けるものとする。
 - ④部活動は、3 学年まで継続を希望する生徒は、所定の用紙に記入し顧問に申し出る。（但し以下の条件を満たしていること）
以下の生徒は面談等を行い、継続を判断する。
1)1年生と2年生の評定平均が3.0以上であること。評定平均の算定方法は、2学年までの5段階評価の評定を合計したものを科目数で割ったものとする。また、評定1がある場合。
2)1、2年で無届欠課、無届欠席を全て合わせた合計が30回以下であること。
- (2) 活動時間
- ①平日の活動は、下校時間を厳守する。夏季(2月上旬(学年末考査終了後)～10月末)19時15分、冬季(11月～2月上旬(学年末考査終了後))18時45分。
 - ②休日の活動は、原則 16:30 までとし、下校時間(17:00)を厳守する。
 - ③長期休業中の活動は、平日に限り原則 16:15 までとし、下校時間 16:45 を厳守する。
- (3) 外部指導者をおかないものとする。但し、技術指導のため外部から指導者を必要とする場合は、校長の許可を得る。
- (4) 部活動に関する諸問題は、部長・顧問会で話し合う。
- (5) 部活動の停止と廃止について
- ・部活動の本来の趣旨に反し、学校秩序を乱すような行為があった場合、校長は活動停止または部の廃止を命ずることができる。
- (6) 生徒派遣について（派遣規定抜粋） 第7条欠格事項
- 第7条 次の各号のいずれかに該当する生徒は、対外行事等への出場資格を失う。
- (1) 懲戒処分又は特別指導を受けた者は、その直後の対外行事等への出場資格を失う。
 - (2) 勤怠状況について、次のいずれかに該当する者は、成績判定会議直後の対外行事等への出場資格を失う。
 - ① 当該学期の無届欠席が 5 日以上
 - ② 当該学期の無届欠課が 5 回以上
 - ③ 学年末の無届欠席が 1 5 日以上
 - ④ 学年末の無届欠課が 1 5 回以上
 - (3) 学業成績について、次のいずれかに該当する者は、成績判定会議直後の対外行事等への出場資格を失う。
 - ① 当該学期(1,2学期)・学年末(3学期)の成績が評定平均 3.0 未満
 - ② 当該学期(1,2学期)・学年末(3学期)の成績の評定に「1」がある者

10、身分証明証に関すること

- (1) 有効期限 3 年。入学後、担任で作成し配布する。（令和 4 年度入学生より）
- (2) 有効期限の延長（復学生、原級留置等）や紛失、氏名・住所変更等がある場合は生徒ガイダンス部 HR 係へ再発行を申請する。
- (3) 転学、退学の際は、身分証明証を生徒ガイダンス部に返却する。

1 1、懲戒規定

(1) 声かけ支援対象

1. **身なり・服装** ※TPOに応じた常識ある身なりをしていますか？
①スカート丈（膝頭より上）②制服を正しく着用していない ③ピアス（透明ピアス含む） ⑤化粧、まゆ毛染め、色つきリップ ⑥マニキュア
⑦カラーコンタクト ⑧パーマ（まつ毛も含む） ⑨染髪 ⑩奇抜な髪型（ライン・コーンロー等）⑪異装（カーディガン等）
2. **携帯電話・スマートフォン**
「7、スマートフォン等について」に準じ、違反した場合は声かけ支援対象とする。
3. **その他校則に反する行為**・・・学校の秩序を乱す行為、怠忽不良、娯楽を目的とした物（マンガ・ゲーム等）の持ち込み、校時中の無断外出など

(2) 指導対象行為（委員会裁量）

カテゴリー	指導対象行為	
深夜徘徊	深夜徘徊	厳重注意（教頭指導、保護者等呼び出し＋日誌指導 3 日）
飲酒関係	飲 酒（同席・帮助も含む）	訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）
喫煙関係	喫 煙（電子タバコ・ニコチン無しのタバコ・タバコ所持・喫煙同席も含む）	訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）
交通安全	交通二	無免許運転 停学（謹慎）（校長指導、保護者等呼びだし＋出校停止 7 日）
		飲酒運転 停学（謹慎）（校長指導、保護者等呼びだし＋出校停止 7 日）
		スピード違反 停学（謹慎）（校長指導、保護者等呼びだし＋出校停止 7 日）
	道交法違反（ノーヘル・事故等） 訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）	
	交通三悪同乗 訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）	
	免許取得（無許可） 厳重注意（教頭指導、保護者等呼び出し＋日誌指導 7 日）	
	車輛運転・通学（免許取得の 3 を含む） 訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 3 日）	
	車輛への同乗（本校及び他校生徒が運転する車輛への同乗） 厳重注意（教頭指導、保護者等呼び出し＋日誌指導 3 日）	
考査時不正行為	カンニング	訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）
	カンニング帮助	訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）
	考査受験に不必要なものの所持	委員会裁量
暴力	暴力行為（暴言・誹謗中傷・いじめ・セクハラ・盗撮等を含む） 訓告及び停学	
窃盗	窃盗・万引	訓告（校長指導、保護者等呼び出し＋別室指導 5 日）
サイバー	Web 上への不適切情報の掲載 委員会裁量	
その他	指導拒否	委員会裁量
	無許可のアルバイト	厳重注意（教頭指導、保護者等呼び出し＋日誌指導 5 日）
	その他	委員会裁量

令和8年度 校納金 明細書 (全学年)

沖縄県立那覇国際高等学校

	1 学年 合計	2 学年 合計	3 学年 合計	備 考
PTA 会 費	8,400	8,400	8,400	月額 700円
進 路 指 導 費	9,000	9,000	9,000	月額 750円
派 遣 費	12,000	12,000	12,000	月額 1,000円
同 窓 会 費			1,000	
後 援 会 費			3,000	
対 外 模 試 受 験 料	22,230	26,350	33,600	必修模試
ス タ デ ィ サ プ リ	6,160	6,160	6,160	
車 両 維 持 費	1,500	1,500	1,500	
高 体 連 会 費	800	800	800	沖縄県高等学校体育連盟
高 文 連 会 費	800	800	800	沖縄県高等学校文化連盟
安 全 振 興 会 費	720	720	720	生徒治療見舞金
災 害 共 済 掛 金	860	860	860	日本スポーツ振興センター
生 徒 会 費	2,400	2,400	2,400	
芸 術 鑑 賞 費	1,000	1,000	1,000	
顔 写 真 代	350	350	350	
S E R A P L U S	330	330	330	生徒指導資料
地 歴 公 民 研 修 費	240			
家 庭 科 実 習 費		2,200		
家 庭 ク ラ ブ 会 費		180		
キャリアパスポート用ファイル	130			
体 力 テ ス ト	210	210	210	
修 了 記 念 写 真 代	700	700		
卒 業 ア ル バ ム			8,500	
遠 足 代	4,200	4,200	4,200	
学 校 行 事 費	1,000	1,000	1,000	那覇国祭
合 計	73,030	79,160	95,830	

R8.9.1現在。次年度は変更する可能性もあります。

事務室からの お知らせ

4つの制度

①就学支援金制度



毎月の授業料を実質無料にする国の制度です。支援を受けるためには必ず申請する必要があります。

②奨学のための給付金



授業料以外の教育費を補助する給付金制度です。収入要件があります。

③通学費支援



路線バスやモノレールを利用している生徒で、非課税世帯やひとり親等の世帯を対象にした通学費支援制度です。収入要件があります。

④遠距離等通学費支援



③が対象外の生徒で、利用額が1か月あたり15,000円を超える部分を補助する制度です。収入要件があります。

○お問い合わせ 上記内容は、本校HP→「事務室より」でも確認できます。

那覇国際高校 事務室 098-860-5931

(月曜日～金曜日 午前8時30分～午後16時30分 (土日祝除く))